

(一社) 埼玉県浄化槽協会 副理事長

神保 照男 氏



旭日單光章受章祝賀会

日時 平成三十年三月四日 (日曜日)

開式 午後三時

会場 坂戸グランドホテルWIN

## 御礼の言葉

この度 平成二十九年秋の叙勲において (一社) 埼玉県浄化槽協会における活動が評価され 旭日單光章受章の栄に浴しましたことは 身に余る光栄であります

これも偏に 本日ご臨席の皆様をはじめとする多くの方々より頂戴した温かいご指導とご支援の賜と 心より厚く御礼申し上げます

去る十一月十三日 環境省において環境大臣より勲記勲章の伝達を受け 引き続き皇居に参内し 豊明殿におきまして天皇陛下に拜謁の栄誉と共に労いのお言葉を賜り 感激の極みでございました

今後は この榮譽に恥じぬよう 業界の発展と地域社会の振興のため 尚一層の精進を重ねて参る所存でありますので 今後変わらぬ御交誼を賜りますようお願い申し上げます

本日は ご多用中にも関わらずご臨席を賜り かくも盛大な祝賀会になりましたこと 更には皆様より心温まるご祝辞を賜りましたことに 厚く御礼申し上げます

また 小川発起人代表を始めとする皆様のご尽力によりこのような立派な祝賀会が開催できましたことに 重ねて御礼申し上げます

結びにあたり ご臨席の皆様様の益々のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます 御礼の言葉といたします

平成三十年三月四日

神保 照男

## 新聞掲載

神保氏の受章は 産経新聞平成二十九年十一月三日の朝刊に掲載されました 神保氏は「業界の活動が少しでも注目されればありがたい」と取材を受けられました

## 浄化槽整備「現場が大好き」

「身に余る光栄です。埼玉県浄化槽協会の会員企業や関係する皆さまの活動に對していただいたものと思っております」

協会の副理事長として、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換や、定期水質検査の検査率向上などに取り組んできた。県内には約50万基の浄化槽があるが、そのうちトイレの排水しか処理できない単独処理浄化槽が約27万基と半数以上を占める。未処理排水は河川の汚れの主要原因とされ、一刻も早い対応が求められている。

「自宅の浄化槽が単独か合併かの違いすら知らない人が多いのが現状。地道な啓発活動が必要です」。先日行った協会主催の講習会では、会員企業のほか、市町村の関係者も多く参加



旭日單光章 神保照男さん(76)

し、関心を集めた。

いです」

昭和45年に配管工として独立し、水道配管工事から浄化槽設置工事まで幅広く手がけてきた。「現場がとにかく大好き。他の人が難しくして投げ出すような仕事を、あれこれ考えながら完成させたときが一番うれし

以前に比べ現場に行く機会は減ったが、「同世代の仲間がまだ元気に頑張っているの、私も負けられません」。76歳。氣力をみながらせながら、家業と協会の職務に邁進する覚悟だ。(大楽和範、写真も)